

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	農福連携による就労継続支援A型事業
事業主体 (連絡先)	株式会社アルビスファーム信州なかの 中野市大字中野 1340-1 番地 (事業所)
事業区分	(6) オ 地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業 (6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	19,714,845 円 (うち支援金: 8,449,000 円)

事業内容

- 就労継続支援A型事業所を設置し、中野市を中心とした障がい者9名を雇用し、就労支援を実施
- 事業開始にあたり、雇用者の拠点として事業所の増築及び移動用の普通乗用車2台及び軽トラック1台を購入
- 中野市在住の農業者を農業サポーターとして営農委託(指導を含む)を実施
- 中野市内の遊休荒廃地を借り受け、たまねぎの作付けを実施。平成30年春以降に収穫予定



【 事務所内での作業指導 】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 障がい者9名を雇用し、作業に従事した。当初は、戸惑う場面もあったが、徐々に慣れ、積極的に作業に参加するようになった。
- 遊休荒廃地を借り受け、秋にたまねぎの作付けを行った。
- たまねぎの作付け前に試験的にズッキーニを栽培し、当社の親会社である富山のスーパーマーケットで販売を行い、お客様から好評を得た。今後は、長野県産、自社農園で栽培した野菜をアピールして販売を広めることが可能と思われる。

【目標・ねらい】

- ① 障がい者の就労の場の開拓
- ② 遊休荒廃地を再生し、たまねぎの栽培
- ③ 長野県の作物を県外で販売し、長野県ブランドを広める

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 平成30年春以降にたまねぎの収穫を行い、北陸地区で販売を実施する。
- 平成30年度も継続して、事業を行い、作付面積を増やし、たまねぎのほかに、ズッキーニやじゃがいも、かぼちゃ等の作物も栽培していきたい。
- 障がい者が自信を持って農作物を栽培できるように農業サポーターや当社従業員が支援を進めていく。

※自己評価【 B 】

【理由】

スタート段階であり、課題もあるが当初見込んでいたことは実施できた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある